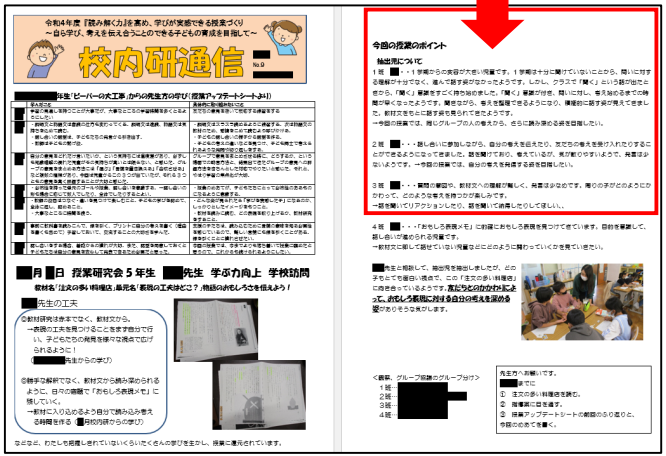
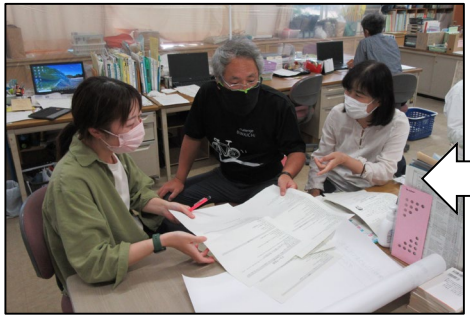
学びの姿の見取り　児童の姿で語り合うための工夫②抽出児童の設定

　授業のねらいに沿って、学級で数名の抽出児童を決め、複数の教員でその児童の様子を中心に観察することで、児童の姿を基に研究授業の成果と課題について協議できるようにしました。（例、発表は得意だが深く考えることが苦手な子、深く考えるが発表が苦手な子、よく考えよく発表する子、など）
　さらに、抽出児童の前時までの様子や発話記録等を校内研究通信などを用いて全ての教員で共有しました。その児童を知ってもらうことで、前時までの様子と比べながら研究授業での姿を見取り、話し合えるようになりました。そのためには、研究授業の前に授業を参観し、児童の様子を記録しておくことも大切だと感じました。また、参観時の児童の様子から、単元計画を見直したり、授業の手立てなどを授業者と校内研究主任が協議したりして、授業改善へとつなげました。

前時までの抽出児の様子をお知らせ





職員室で授業記録を見ながら、
次回の授業へ向けての話をする様子

　授業記録を読まれた先生が次々と話合いに参加されました。

　グループ協議では、抽出児童の姿を基にして、効果的であった手立てや残された課題などについて具体的に話すことができました。全ての教員が共通の視点をもって児童の姿を見取ったことで、若手からベテランまで積極的に話し合う姿が見られました。また、異なる傾向の児童を抽出したことで、自分の学級の児童に重ねながら話す姿も見られました。　　（Ｂ小学校　校内研究主任）